

平成30年度宮崎県普及指導活動外部評価会の結果報告資料

センター名	プロジェクト名	主な意見・提案				普及活動等への対応方針
		計画の策定	活動の経過・実績	成果目標の達成状況	その他	
中部	日本一の施設ミニトマトの産地づくり	<p>◆新技術の導入などミニトマトを取り巻く課題に的確に対応した普及計画となっている。</p> <p>◆プロジェクト全体の到達目標の設定は適切であるが、5年に亘る長期計画であることから、年度毎の目標値を設定し、より進捗管理を強化する必要がある。</p> <p>◆より実践的なスマート農業を普及するため、試験研究成果や県内外の優良事例等を参考にした最適な管理方法の確立のための計画作成が必要。</p>	<p>◆全般的に関係機関としっかり連携した取組が評価できる。</p> <p>◆アンケート調査やSWOT分析、マトリックス分析は、個々の課題を把握するための最適な手法として評価できる。</p> <p>◆新技術（環境制御技術）の導入や分析等の取組は一定の評価はできるが、費用対効果が不透明。</p> <p>◆産地維持に不可欠な新規就農者に対する充実した普及活動が評価できる。</p>	<p>◆プロジェクト全体の到達目標（販売量、販売額）は順調に進捗しており、達成状況は良好。</p> <p>◆「組織共通課題の明確化」は順調に進んでいるが、それに続く「部会活動の強化」の達成状況を明確にすべき。</p>	<p>◆儲かる農業の実現と産地活性化に向けて、効果的な取組が進んでいる印象。</p> <p>◆新技術の導入で一部農家での経営圧迫が懸念。</p> <p>◆若手農業者を中心としたPR活動の取組が必要。</p> <p>◆試験研究機関や先進的な経営体との連携を強化すべき。</p>	<p>●本プロジェクトの目標達成のため、年度毎の目標値を設定し、進捗管理を強化するとともに、今後策定予定の産地ビジョンにおいて、組織共通課題の解決に向けた行動計画を作成し、主体性のある部会活動に誘導していく。</p> <p>●スマート農業をはじめとする新技術の導入については、試験研究成果や優良事例等を参考にしながら、管理手法の確立のための計画を作成するとともに、費用対効果分析に基づく経営上のリスクを明らかにしていく。</p> <p>●産地ビジョンにおいて、農業者自ら販売戦略を構築し、PR活動等を展開する計画を策定する。</p>
	部会一体となった力強いきんかん産地の育成	<p>◆地域の現状に的確に対応した課題設定となっている。</p> <p>◆後継者のいる生産者が約3割に止まり、部会48戸のうち39%が71歳以上という現状を鑑みると、第三者承継に加え、その他の手法による数値目標も設定し、後継者確保に取り組む必要があると思われる。</p>	<p>◆全般的に関係機関との連携は評価できるが、担い手確保の取組については農業経営指導士等の外部の意見も取り入れながら多面的な視点で進める必要がある。</p> <p>◆出荷早期化に向けた加温管理技術は、成果目標の達成状況（1月出荷量の増加）からみて非常に評価できる普及活動である。</p> <p>◆担い手の確保に関して「第三者承継」という難度の高い目標に取り組む活動は高く評価できる。</p>	<p>◆大玉果率や支援農家数、販売額は順調に推移しており、県内2位の産地として他地域への普及も十分期待できる。</p> <p>◆園地継承農家数の達成は、難度が高いと思われるが、ノウハウが普遍化されれば、地域全体への大きな波及が期待できる。</p>	<p>◆完熟きんかんはマンゴーに次ぐ全国区のブランド。農家の高齢化が進む中、県央地域での産地維持は、ブランド維持のためにも重要な課題。担い手の確保や法人化による大規模生産についても検討が必要。</p> <p>◆きんかんの需要が高まる中、安定供給のためにも担い手確保のための対策が急務。</p>	<p>●本プロジェクトの目標達成のため、産地ビジョンに基づく各種取組を関係機関と連携して計画的に進めていく。</p> <p>●今後の産地維持のため、関係機関と連携しつつ、農業経営指導士等の外部の意見を取り入れながら、意欲ある部会員を中心に規模拡大を進めるとともに、第三者承継を含めた多様な担い手（定年帰農者等）の確保を目指す。</p>

平成30年度宮崎県普及指導活動外部評価会の結果報告資料

センター名	プロジェクト名	主な意見・提案				普及活動等への対応方針
		計画の策定	活動の経過・実績	成果目標の達成状況	その他	
児湯	地域力を結集した西米良農業の活性化	<p>◆目指す姿と普及指導活動の内容が明確で分かりやすい。</p> <p>◆条件の厳しい中山間地域でも営農が可能な品目に絞った上で、明確な目標設定ができています。</p> <p>◆高齢化や人口減少など地域の将来を見通した、適切な課題設定がなされています。</p> <p>◆担い手が特定される中であって、中山間地域の環境を踏まえた計画の方向性を多様な着眼点で検証することが望まれる。</p>	<p>◆低樹高化や園地マップの取組は、生産者の高齢化や人口減少に対する有効な取組として評価できる。</p> <p>◆中山間地域での就農者確保は非常にハードルが高いため、農業体験ツアーなど新たな普及手法を検討してはどうか。</p> <p>◆関係機関や普及センター内での連携は十分に図られているが、駐在員が1名であることから、センター内での情報共有体制の強化に一層尽力する必要。</p> <p>◆担い手に対しての個別指導体制を含めて濃密な指導が展開されている。</p>	<p>◆全般的に到達目標の達成状況は良好である。</p> <p>◆地域の将来を見通した取組みであり、地域全体への波及効果は大きい。</p>	<p>◆中山間地域の農業は、平場に比べ厳しい環境であるが、地域づくりとコミュニティ維持の観点からも、基幹産業となる農業の振興は不可欠。今後は地域活性化の取組とも関連させながら対策を進めていく必要。</p>	<p>●新規就農者の確保については、西米良村が取り組む定住促進事業との連携を図りながら、「西米良村新規就農対策会議」の中で具体的な取組を検討し、実施していく。</p> <p>●普及活動については、駐在員と普及センター内の品目担当者間で随時情報共有に努めるとともに、行政部門（農林振興局）との連携も強化する。</p> <p>●地域活性化については、ワーキングホリデー事業や定住促進事業、中山間直接支払制度など、多様な取組や施策を活用し、関係機関や地元食品加工業者とも協調しながら進めていく。</p>
	産地ビジョンに基づくピーマン産地の育成	<p>◆なりゆき予測に基づく課題設定は、危機意識を高め効果的な対策が取りやすく高く評価できる。</p>	<p>◆「ハッピーマン」を重点対象として、栽培技術の向上に「先行して」取り組む活動手法は効率的である。</p> <p>◆若手農家が新たな技術に取り組む成果を挙げることが、地域へのインパクトも大きく、担い手確保にもつながる。</p> <p>◆蓄積された技術が埋没されないよう新たな技術と組み合わせながら、担い手に確実に伝承していく必要。</p> <p>◆減農薬の取組は消費者の関心も高く購入動機につながるため、更なる技術の向上に期待する。</p>	<p>◆出荷量や平均収量、栽培面積が確保・維持されており、関係機関が連携した対策が効果を奏している。</p> <p>◆出荷量、栽培面積とも予測を大きく上回っており、成果目標の達成に向けて順調に推移している。特に「ハッピーマン」の平均単収が大きく向上していることは、「儲かる農業の実現」に向けて、地域全体を活性化する効果が期待できる。</p> <p>◆一方、施設園芸の技術移転、新技術のプラットフォーム機能の確立が必要。</p>	<p>◆現地視察先で意欲的に農業に取り組んでいる若手農家の姿が印象的であった。ただ、規模拡大と労働力確保はセットに考える必要があり、このような若手農家が更に増えていくように省力化技術などの新たな技術確立と普及が必要。</p>	<p>●「ハッピーマン」で取り組んだ環境制御や炭酸ガス施用技術等は、JA部会の講習会や「ハッピーマン」以外の自主学修グループの勉強会を通じて産地全体に広げていく。</p> <p>●省力化技術については、整枝方法や複合環境制御など県総合農業試験場で開発している新たな技術を現地で実証し、速やかな普及を図っていく。</p>